

インマヌエル中目黒キリスト教会

2015年10月18日聖日礼拝

使徒の働き連講65

「パウロ、市民権を主張」

使徒の働き22章17節-30節

竿代照夫牧師



聖書朗読

新約聖書

使徒の働き 22章 17節 - 30節

聖書本文は新改訳聖書第三版
(©新日本聖書刊行会) を使用しています。

第二版の聖書はp252 ~ / 第三版の聖書はp275 ~

- 17 こうして私がエルサレムに帰り、宮で祈っていますと、夢ごこちになり、
- 18 主を見たのです。主は言われました。『急いで、早くエルサレムを離れなさい。人々がわたしについてのあなたのあかしを受け入れないからです。』
- 19 そこで私は答えました。『主よ。私がどの会堂ででも、あなたの信者を牢に入れたり、むち打ったりしていたことを、彼らはよく知っています。』

- 20 また、あなたの証人ステパノの血が流されたとき、私もその場において、それに賛成し、彼を殺した者たちの着物の番をしていたのです。』
- 21 すると、主は私に、『行きなさい。わたしはあなたを遠く、異邦人に遣わす』と言われました。」
- 22 人々は、彼の話をここまで聞いていたが、このとき声を張り上げて、「こんな男は、地上から除いてしまえ。生かしておくべきではない」と言った。

- 23 そして、人々がわめき立て、着物を放り投げ、ちりを空中にまき散らすので、
- 24 千人隊長はパウロを兵営の中に引き入れるように命じ、人々がなぜこのようにパウロに向かって叫ぶのかを知ろうとして、彼をむち打って取り調べるようにと言った。
- 25 彼らがむちを当てるためにパウロを縛ったとき、パウロはそばに立っている百人隊長に言った。「ローマ市民である者を、裁判にもかけずに、むち打ってよいのですか。」

- 26 これを聞いた百人隊長は、千人隊長のところに行って報告し、「どうなさいますか。あの人はローマ人です」と言った。
- 27 千人隊長はパウロのところに来て、「あなたはローマ市民なのか、私に言ってくれ」と言った。パウロは「そうです」と言った。
- 28 すると、千人隊長は、「私はたくさんの金を出して、この市民権を買ったのだ」と言った。そこでパウロは、「私は生まれながらの市民です」と言った。

- 29 このため、パウロを取り調べようとしていた者たちは、すぐにパウロから身を引いた。また千人隊長も、パウロがローマ市民だとわかると、彼を鎖につないでいたので、恐れた。
- 30 その翌日、千人隊長は、パウロがなぜユダヤ人に告訴されたのかを確かめたいと思って、パウロの鎖を解いてやり、祭司長たちと全議会の召集を命じ、パウロを連れて行って、彼らの前に立たせた。

説教

使徒の働き連講65

「パウロ、市民権を主張」

使徒の働き22章17節-30節

竿代照夫師



主テキスト

「彼らがむちを当てるためにパウロを縛ったとき、パウロはそばに立っている百人隊長に言った。『ローマ市民である者を、裁判にもかけずに、むち打ってよいのですか。』」

(使徒の働き 22:25)

1. パウロ、弁明を締めくくる(17～21節)

- ・「エルサレムを離れよ」

- ・異邦人伝道への派遣

2. 群衆の怒りが再発する(22～24節)

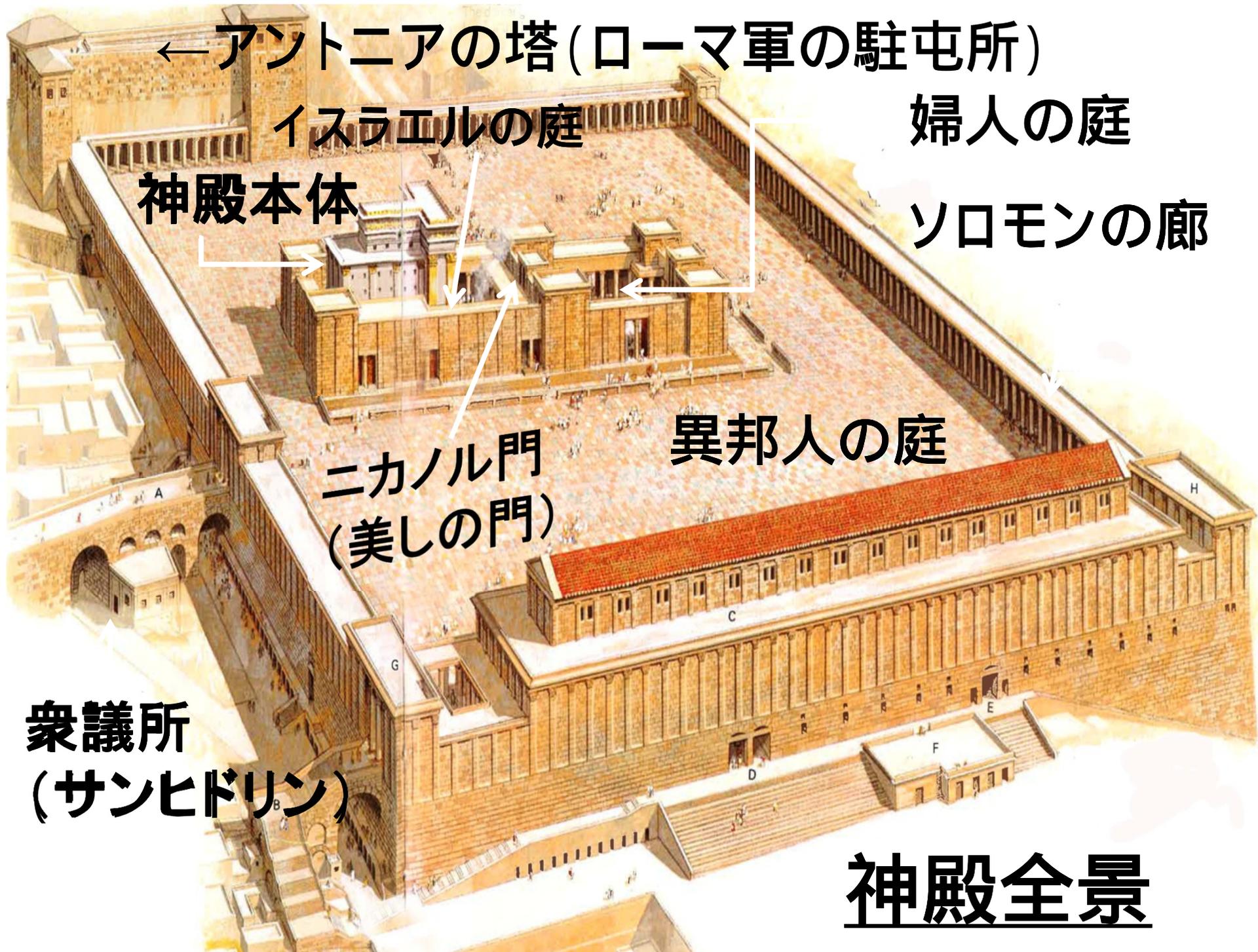
- ・「異邦人」との言葉が引き金
- ・鞭打ちと取り調べ：「鞭打ち」(マスティクス)
とは恐ろしい刑罰

3 . パウロ、市民権を行使する(25 ~ 29節)

- ・ローマ市民であることを明かす：市民権に含まれるもの： 裁判を受ける権利 鞭打ちを含む不当な罰を受けない権利 皇帝に上訴する権利
- ・パウロが市民権を主張した場合、しなかった場合
- ・市民権を「買った」千人隊長vs世襲したパウロ
- ・千人隊長、鞭打ちを停止
- ・ルカの編集意図：キリスト教もローマで市民権を持っている

4 . 千人隊長、議会を招集する (3 0 節)

- ・サンヒドリン議会の招集 (神殿全景参照)



← アントニアの塔 (ローマ軍の駐屯所)

イスラエルの庭

婦人の庭

神殿本体

ソロモンの廊

ニカノル門
(美しい門)

異邦人の庭

衆議所
(サンヒドリン)

神殿全景

終わりに

権利を主張する場合、控える場合、
どちらも主の栄光のため